学校園への災害対応型自動販売機の設置拡大

令和元年から開始した中学校への自動販売機の設置



- 令和３年度は23校でしたが、令和６年度は40校まで拡大することができました。
- 設置には、保護者や学校の費用負担はなく、設置により新たに年間５万円の予算が配当され、設置校はその予算を活用して更なる教育環境の向上に繋げることが可能となります。
- 現在の学校には冷水機などは整備されておらず、急な水分補給や熱中症への対策に課題があると感じます。
- 災害時の活用、防犯カメラ機能も有しており、学校施設開放事業の利用者も多くおられる事から、全ての堺市立学校園へ取組みを拡げるとともに、物品の内容や廃棄について子ども達が主体的に考え、学びに繋がる取組みを行うよう提案しています。（令和３年６月～令和６年９月質疑）

REGION

地域のこと

地域や関係者の皆様のご相談・ご協力をいただき、感謝を申し上げます。
引き続き、より良い堺・未来を創るため尽力してまいります！

新金岡町 植樹の剪定



中百舌鳥駅南側 歩道の改修



● 発行元・お問合せ／中野たかふみ（堺市議会議員）



1986年（昭和61年）1月30日　堺市北区北長尾町生まれ　百舌鳥梅北町在住　妻・子ども３人
学歴：新宝珠幼稚園/帝塚山学院小学校/松本歯科大学/神奈川歯科大学大学院（単位取得退学）
職歴：中野歯科医院 歯科医師（歯学博士）/ 前 通所介護施設運営 / 前 学校法人理事
党職：大阪維新の会 堺市議団 政務調査会 副会長

〒591-8037 堺市北区百舌鳥赤畑町5丁458-5
TEL：072-228-7286　FAX：072-275-8188
Email：nakano.dentist@gmail.com

公式HP　X（旧Twitter）　YouTube　Facebook

議会での質疑の詳細については　堺市議会 会議録検索システム　を検索ください。

批判やあげ足をとる政治ではなく、自らでよく考え、提案から実行するための政治活動を行います！

中野たかふみ 市政レポート Vol.17

大阪維新の会 堺市議会議員（堺市北区選出）



DISASTER

防災・災害対策

災害に強い地域、まちづくりを。
災害が生じても、安心して過ごせる堺市へ。

ペットとの同行・同伴避難の推進

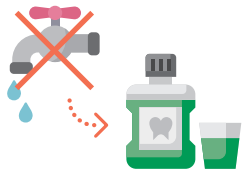
- ペットと避難所へ避難する（同行避難）、避難所で飼育する（同伴避難）の体制が整備されておらず、令和３年の議会で提案。
- マニュアルの整備やそれに基づきペットを伴った避難訓練の実施などを行う旨の答弁を得ましたが、３年間で実施されたのは堺市内で２校区のみ。マニュアルの整備などの取組みも遅いと感じます。



危機管理室からは堺市全ての指定避難所で、ペットの受け入れができると答弁がありましたが、訓練などを行わず避難所を開設した場合、運営される現場の方だけでなく、避難者にも大きな混乱やトラブルが生じる可能性があると考え、早急に対策を行うよう改めて強く求めました。
（令和元年12月～令和６年９月質疑）

備蓄物の選定見直し　液体ハミガキの導入・配備を提案

- 災害関連による死者数は阪神・淡路大震災では919人。熊本地震では212人。能登半島地震では247人と依然として多く、対策の強化が必要であると考えます。また、堺市の持ち出し品の内容や避難所での口腔ケアにも課題があると感じます。



ペースト状などの歯磨き剤は、ゆすぐ際に水が必要となりますが、被災時は水の確保も難しくなります。『液体の歯磨き剤』は水を必要とせず、薬効を有し、５年間保存可能な災害対応型の製品も流通しています。口腔ケアを積極的に行い、全身疾患の悪化や災害関連死を防ぐことを目的に、これらの確保・備蓄などの整備を行うよう提案しました。
（令和４年６月～令和６年９月質疑）

EDUCATION

＼ みんなで考えよう！ ／

1つの学校に1つのプールは必要？

👉堺市立小・中学校の135校、1校に1つずつプールが設置されています。そのうち63校が設置から40年が経過しており老朽化も著しく、仮に60校のプールを改築した場合、概算で約132億円が必要となります。

👉これまで設置から40～50年で改築などが行われてきましたが、少子化や人口減少が進む中で、新たに多額の改築費（税金）を投じて1校に1つずつのプールを整備していくことに疑問を感じています。

CHECK1 学校の水泳授業は年間で10時間未満！

- プールの水泳授業の実施時期は、6月～9月（7月下旬から8月下旬までは夏休み）
- 授業数は年間で8～10時間程度
- 屋外にプールが設置されているため、水温や天候により実施ができない日もある

CHECK2 プールの改築・運用にかかる費用は年間約700万円！

プールの改築を行う場合

改築費用（概算）
約2億2,000万円/1校

40年間利用すると仮定した場合
約550万円/年

修繕や水道料金など
約150万円/年

合計：約**700**万円/年

民間施設等のプールを活用した場合

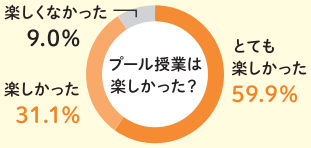
施設利用料
約45万～242万円/年

送迎バスの費用
約174万円/年

修繕や水道料金など
0円

合計：約**219~416**万円/年

※民間施設等のプール利用料は、日置荘小学校で約242万円、原山台中学校で約45万円。送迎バスの費用は、堺市小・中学校の平均的な生徒数460人・バスの移動距離を10km・10時間分の授業の実施を仮定（令和6年9月質疑）



屋内温水プールで水泳授業を受けた児童6,477人に調査

東京都葛飾区では、令和6年度は区立小学校49校のうち26校で区立や民間の屋内温水プールを利用し、水泳授業を実施するなどの取組みが進められています！　調査データ出典元：葛飾区公式サイト

中野たかふみの考えと提案 令和6年9月質疑



民間・市有施設のプールを活用する or 共同利用が望ましい

↓

より良い環境で学ぶことができる・必要コストが削減できる

↓

捻出した財源で、その他の教育環境の向上が行える

学校トイレ全ての洋式化や、エレベーターの設置等のバリアフリー化の推進など
さらなる教育環境の向上が行えるのではないかと考えています。

考えられるメリットとデメリット

●コストパフォーマンスの向上

- 改築や維持管理費用が発生しない
- 維持管理の必要がなくなり、教職員の業務負担の軽減が行える
- 監視員などの人員の確保が容易になる
- 予算不足等によりプール改築が行えないことによる授業の中止を避けられる

●水泳授業における環境の向上

- 民間や市有施設は屋内プールが多く、天候や気温、水温に影響されない
- 年間を通じて水泳授業を行える
  - 屋内プールの場合、見学者を含めて熱中症発症のリスクが軽減できる
- 更衣室が整備されている



●学習意欲への効果

- 水泳指導を専門とした授業を受けることが可能になる
- 民間施設の利用により、その後の水泳学習意欲につながる可能性がある

●その他

- プールの跡地など学校施設財産の活用が可能となる
- 捻出した財源で、その他の教育環境の整備に活用できる

●考えられるデメリット

- 民間事業者と施設活用のための実施計画や協議が必要となる
- 移動時間が必要になる・移動中の事故に対する安全対策、運送事業者の確保が必要となる
- 火災時の防水槽、災害時の生活用水としての機能が喪失する
- 民間事業者が撤退した場合、計画の変更が必要となる